

西多摩医師会報

第215号 平成2年11月



木曾駒 石井好明

目 次

	頁		頁
1. 学術		続・ほろ酔い随想 桂木 眞	10
心病変を伴い皮下硬結を多発した		BEATLESの時代 渡辺良友	12
サルコイドーシスの1例 田村啓彦	2	8. 生涯現役 高木直二郎	14
2. 理事会報告 広報部	5	9. 西村会長都知事表彰受賞祝賀会	15
3. 地区医師会会長協議会 西村邦康	6	広報部	15
4. 厚生省通知の送付(日医) 転載		10. 第6回写真展 写真部	16
広報部	7	11. ブロックだより	16
5. 日本医学会総会登録案内 広報部	8	12. お知らせ	18
6. 各部紹介〔公衆衛生部〕大堀洋一	9	13. 医師会日誌	21
7. 文芸随筆その他諸事百般		14. 表紙のこぼれ 石井好明	22
十一月の世相を見て 小泉新策	10	15. あとがき 小机敏昭	22

学術

心病変を伴い皮下硬結を多発した サルコイドーシスの1例

田村 啓彦 (福生市)

キーワード：サルコイドーシス
皮下型皮膚サルコイド
心サルコイドーシス

四肢に鶏卵大までの皮下硬結を散在性に認め、治療に抵抗する心室性期外収縮を合併した、53歳女性のサルコイドーシスを経験しましたので報告致します。この症例は、千葉万智子医師とともに、日本皮膚科学会東京地方会に報告したのですが、皮膚科ばかりでなく内科的にも興味有る症例と思われしますので投稿致しました。

1. はじめに

皮膚サルコイドは、結節型、局面型、びまん浸潤型、皮下型およびその他の型の5型に分類されるが、そのうち皮下型は結節型などに比べ従来、本邦では頻度は少なく¹⁾、その大きさも胡桃大以下とされていた。²⁾しかし近年、皮下型サルコイドが数多く報告されるようになり、その大きさも胡桃大以上の大型のものも散見されている。

また、サルコイドーシスにおける心病変の出現頻度は比較的低率であるとされるが、皮膚サルコイドとの合併例は少なからず報告されている。

2. 症例

患者：53歳女性。

主訴：両膝蓋、肘頭の発赤、硬結。

家族歴：特記すべきことはない。

既往歴：33歳時、子宮筋腫摘出術。

現病歴：2年前より、心室性期外収縮の診断のもとに、近医にて抗不整脈薬の内服加療中である。1ヶ月前より、両膝蓋、肘頭、前腕に発赤、熱感を伴う鶏卵大までの皮下硬結が出現した。

現症および入院までの経過：初診時、両膝蓋から下腿にかけ、発赤、熱感、腫脹および

同部に圧痛ある皮下硬結と両下肢の浮腫、倦怠感を認めたため、臨床的に結節性紅斑と診断、ヨードカリ 1.0g/日の内服を開始した。ヨードカリ内服後約1週間で発赤、腫脹は消褪したが、両膝蓋に鶏卵大の皮下硬結が残存した(第1図)。また、両膝蓋には浸潤のある線状瘢痕(第1図)、右肘頭、左前腕は拇指頭大までの皮下硬結を認めた。皮下硬結はいずれも圧痛なく、境界明瞭で、下床とは可動性である。ここで結節性紅斑の診断に疑問をもち、皮下硬結ならびに線状瘢痕について生検を試みたところ、皮膚サルコイドの組織(後述)を得たため、10月5日入院せしめた。

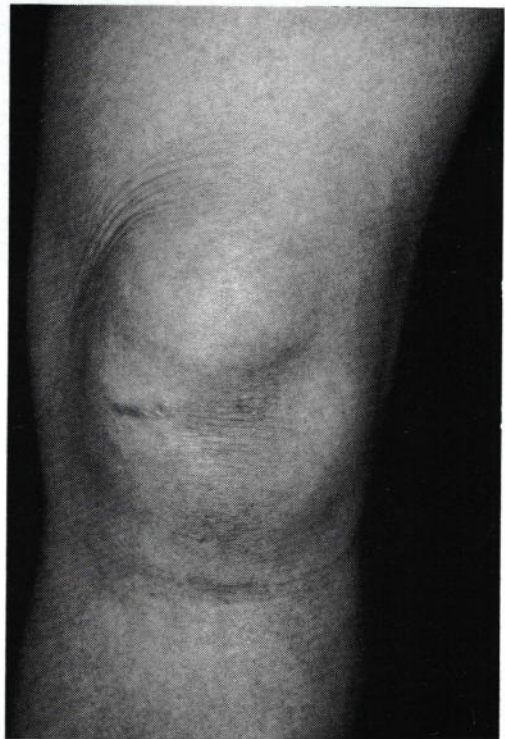


図1

入院時、発熱、呼吸器症状などは認めないが、両膝関節痛と、ときに動悸を自覚する。表在リンパ節腫脹はない。

病理組織学的所見：①左膝蓋の鶏卵大皮下硬結；表皮に異常なく、真皮では軽度の血管周囲性の小円形細胞浸潤を認める。真皮下層から皮下脂肪織内に、境界明瞭な細胞集塊を認める（第2図）。この集塊は類上皮細胞からなり、周囲のリンパ球の浸潤を伴い、ラングハンス型巨細胞、一部に異物巨細胞もみられる。乾酪壊死、封入体は認められない（第3図）。②左膝蓋の浸潤のある癩痕；表皮に著変なく真皮全層にわたり、小型の非乾酪性類上皮細胞肉芽腫を散在性に認めた。なお、①②とも抗酸菌染色、PAS染色にて、結核菌、真菌などは認められなかった。なお、入院時施行した左腓腹筋生検では、肉芽腫構造などの異常所見は認められなかった。

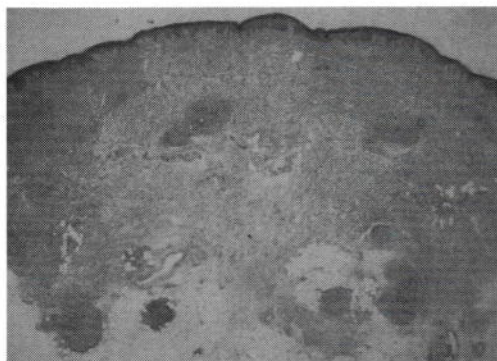


図2

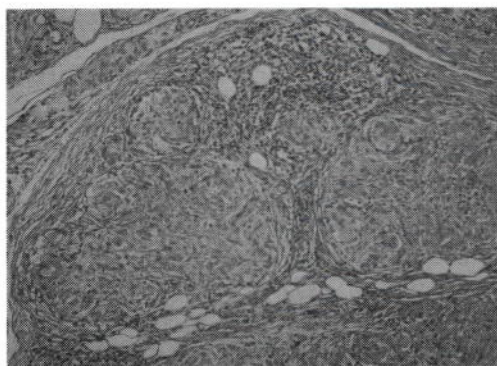


図3

検査成績：末梢血、血算、血沈、血清電解質、蛋白分画に異常はないが、GPT 38U/l、LAP 47.0U/l、ZTT 15.7U、TTT 17.1Uと軽度の肝機能障害を認める。血清ACE、血清リゾチームはそれぞれ、28.7U/ml、14.5U/mlと高値を示した。免疫学的には、末梢血でT cell 80.7%と正常範囲、

B cellは11.1%と増加、OKTシリーズではOKT 3 67.3%、OKT 4 44.1%と正常範囲であったが、OKT 8 17.5%と減少していた。PHA 幼若化 175cpm Con A 幼若化 121cpm と両者とも減弱、ツベルクリン反応弱陽性、DNCB感作不成立など、細胞免疫能の低下が認められた。

胸部X線像ではBHLと軽度の肺野病変を認めたほか、胸部CTにて軽度の肺門リンパ節腫脹、Ga シンチにて肺門部に軽度のuptakeを認めた。

ECGにてST上昇、Holter ECGにて心室性期外収縮の多発（10発/min）を認め、心筋シンチにて前壁にcold spotを認めた。心エコーでは、軽度の三尖弁閉鎖不全を認めた。

指趾骨X線にて襄腫状陰影は認めない。

眼科的には、両眼に白内障を認めるのみであった。

入院後の治療および経過：以上より、癩痕浸潤を伴う皮下型サルコイドと診断した。心病変についても、サルコイドーシスの可能性が高いと考え、抗不整脈薬としてそれまで内服していたジソピラミドに加え、プレドニゾン（PSL）40mg/日より漸減療法を開始した。内服後、約1ヶ月で皮疹、不整脈ともに速やかに消失し、心筋シンチ再検にて前壁のcold spotは消失、また胸部X線上、BHLおよび肺野病変は消失した。血清ACE、血清リゾチームも症状消失に伴い減少した。しかし、PSL 20mg/日まで減量したところ、心室性期外収縮が再発し、血清ACE、血清リゾチームもそれに伴い上昇した。皮疹の再発は認めなかったため循環器内科に転科し、PSL 35mg/日に増量、その後抗不整脈薬も追加し、3ヶ月後不整脈は消失した。PSL 10mg/日隔日投与にて維持療法中であるが、皮疹、不整脈とも再発をみていない。

3. 考 按

サルコイドーシスの罹患臓器別頻度としては、肺門・縦隔リンパ節85.2%、肺34.9%、眼62.6%、皮膚23.9%、表在リンパ節 8.9%、心 5.3%、神経 4.3%、筋肉 2.3%、肝 2.3%の順であり³⁾、臨床的には心病変の頻度は

低い。しかし、サルコイドーシスの部検例では、死因の78%が心障害によると言われている⁴⁾。この頻度は、外国での5~20%⁵⁾に比較して高く、したがってサルコイドーシス患者を経験した時には、臨床病状はなくとも心病変の有無に関して常に配慮すべき必要性が生じてくる。これらの考え方が定着してきたためか、従来、心サルコイドーシスにおいては突然死が多いと言われていたが、近年は心不全死が高頻度となり、生前診断の行なわれる率も高くなってきている⁴⁾。また、心電図所見として洞性徐脈、心房性ないし心室性期外収縮、ST-T変化、右脚ブロックなどが有意に多いとされている。

一般的にサルコイドーシスは自然緩解傾向が強く、原則的にステロイド内服を行わず無治療で経過を観察することが、現在その基本とされており、皮膚サルコイドにおいても病変が顔面にあって醜形を呈する場合や、関節痛の著明な結節性紅斑の場合を除いて、無治療で経過を観察することが多い。しかし、活動性の眼病変、A-C blockを有する全肺野病変、重症な中枢神経症状、心サルコイドーシス、血球減少などを伴う脾腫大、持続性の高Ca血症および高Ca尿症の場合はステロイド内服の絶対的適応とされている⁶⁾。心サルコイドーシスに関しては、特に早期においてステロイド治療は有効であり、不整脈には心臓ペースメーカーの植込みや抗不整脈薬、心不全には血管拡張薬や利尿薬などを併用しながら、ステロイド治療を何年でも維持量で続けていくことが基本的なものとされている⁴⁾。

本症例の場合は、皮疹出現の約1年前より抗不整脈薬が奏効しない不整脈が存在したため、心サルコイドーシスの可能性が高いと考え、ステロイド内服を開始したところ、皮疹と共に不整脈も速やかに消失した。しかし、PSLを20mg/日に減量したところ、不整脈のみ再燃が認められた。心サルコイドーシスに対するステロイド内服療法は、他臓器病変に比較し敏感に反応するといわれているが、ステロイド減量については特に慎重を要する。これは、再発傾向が強い為ばかりでなく、肉

芽腫の消褪後に、瘢痕化をきたし易く、心室瘤を発生させる可能性があるからである。以上のことから、皮膚サルコイドをみた場合には、心病変が臨床的に明らかではなくとも、ECGやHolter ECGによる検索を試み、心病変の早期発見、早期治療が肝要であると考えられた。

文 献

- 1) 福代良一、池田真康：皮膚病診療，2：783-786，1980
- 2) 園田節也：皮膚臨床，10：585-594，1968
- 3) 山本正彦：日内会誌，76：1497-1514，1987
- 4) 関口守衛ほか：最新医学，43：1489-1494，1988
- 5) 鷹津 正ほか：日臨，36：630-647，1978
- 6) 木村郁郎ほか：医学のあゆみ 143：877，1987



理事会報告

9月定例理事会

平成2年9月25日(火) P.M. 7:30
西多摩医師会館講堂

議事録署名人 { 稲垣理事
大嶽理事

議題

1 報告事項

(1) 都医地区医師会長協議会報告

西村会長

(2) 三多摩ブロック医師会長協議会報告

西村会長

(3) その他

1. 青梅市における訪問指導の現状

石井理事

1) 老人保健事業のひとつとして行なっている。

2) 寝たきり状態またはこれに準ずる状態にある在宅療養者を対象としている。

3) 主治医に意見書を書いていただいて、訪問指導を決定している。(全員に主治医がいる。)

4) 対象者：多い順番(1)介護相談に来所または電話して(広報を見て)・(2)保健婦の地域活動の中から・(3)民生委員から紹介されて・(4)厚生課から紹介されて〔職員またはヘルパー(家事援助者)から]・(5)病院・診療所の医師から紹介されて決定した。現在、対象者は70人。

5) 担当人員：(1)看護婦8人(1人で7~8人担当、1例につき月2~3回訪問)・(2)PT(理学療法士)2人(週1回訪問)・(3)OT(作業療法士)1人(月1回訪問)。すべて非常勤。

6) 青梅市の寝たきり老人は182人。
(青梅市福祉協議会調査)青梅市健康センター

2. 西多摩地域の看護婦の確保等に関する要望書が西多摩広域行政圏協議会より東京都青梅看護専門学校長久保木尚夫校長に提出された。これは昨年の推

進協において医師会よりの要望にもとづいたものである。

西村会長

3. 第5回定款改正委員会

9月14日(金)西多摩医師会館において行われた。定款施行細則を除く定款の骨格を完成した。

林理事

2 報告承認事項

(1) 入会会員について 林理事
— 承認 —

(2) 青梅保健所における平成2年度下記委員推薦について

青梅保健所

平成2年度地区母子保健対象協議会

産科 高野和章先生(青梅市立総合病院)

小児科 林良樹先生(青梅市立総合病院)

奥多摩 川辺隆道先生

地区

以上再任

在宅難病患者訪問相談事業

に係わる関係機関連絡会

市原 靖先生

江本 虎雄先生

荒巻 武彦先生

野本 正嗣先生 以上再任

3 協議事項

(1) 在宅ケア検討委員会設置について 林理事

公衆衛生委員会の委員に入っていただき会長諮問委員会として、在宅ケア検討委員会を設置する。 — 了承 —

(2) その他

1. 大腸癌検診について

公衆衛生部で早急に検討する。

— 了承 —

2. 東京都功労者として西村会長が10月

1日表彰される。祝賀会については、副会長、総務部長で検討する。

— 了承 —

10月定例理事会

平成2年10月8日(月) P.M. 7:30
西多摩医師会館講堂

議事録署名人 { 高木理事
道又理事

1 報告事項

- (1) 管内保健所衛生課長との懇談会報告
松原副会長
9月28日(金) 3役と公衆衛生部長
と新しく着任された3保健所の衛生課
長との懇親会が催され医師会と公衆衛
生事業特に保健所との関係について懇
談がなされた。
青梅保健所衛生課長 藤田行朗氏
福生保健所 " 三橋 透氏
五日市保健所 " 渡辺 稔氏
- (2) 多摩医学会役員会 石井理事
11月4日開催された。12月1日講演会
の件について話しあわれた。演題は12
題、うち西多摩6題。座長は三鷹、田
無、保谷の会長があたられる。

2 報告承認事項

- (1) 入会会員について 林 理事
— 承認 —

3 協議事項

- (1) 平成3年度自治体より支給される諸手
当について。 大堀理事・道又理事
- (2) 大腸がん検診について 松原副会長
一次検診については、各医療機関でや
ることを基本とする。二次検診を希望
する医療機関を調査しておく。
— 承認 —
- (3) 「医療協」について
大腸がん検診を議題とする。
- (4) 東京都医師会学校医会被表彰者選考に
ついて 道又理事
- 功労者—大塚 渉先生
 - 特別功労者—西村邦康先生
 - 永年勤続学校医 { 大河原周先生
内野正作先生
- 以上の先生を推薦する。

— 承認 —

平成2年10月地区医師会会長協議会報告

10月19日(金) 午後2時 於 東京都医師会館

西 村 邦 康

東京都医師会長挨拶

- 1) 第29回十二都市医師会連絡協議会につ
いて 既報
- 2) 関プロ医師会連絡会議題 報告、質疑、
特定保健所構想について(神奈川県)
日医答弁 官僚統制にはならない
産業廃棄物処理について 下記参考
看護婦週休2日制について 検討課題
特例許可老人病院入院医療管理科の実施
状況

議 題

- 1 都医からの伝達事項
- (1) 第83回日医臨時代議員会結果につ
いて

1 羽田日本医師会長の日医代議員会
挨拶要旨

医療保険の一本化、医療経済実態
調査の非協力、労災保険の会計監査
院報告への反論、(労災保険は地域
特性を考慮する必要がある)

2 平成元年決算報告 承認

- (2) 平成2年度特殊疾病講演会の開催に
ついて
- (3) 東京都の難病医療費公費負担のお知
らせについて
- (4) 厚生省通知[医療廃棄物の適正処理
に関する疑義について]の送付につ
いて

- Q 9 市町村による処理は、どのように考えるべきか。
- A 9 ガイドラインでは「事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任にいて適正に処理しなければならない」という廃棄物処理法の原則を述べたものであって、市町村による処理はできるだけ行わないようにすべきであるという趣旨のものではない。市町村の焼却施設は、一般に感染性廃棄物を適正に処理することができる施設と考えられるので、市町村は、地域の保健衛生の確保・向上の観点から、地域の実情を踏まえ、感染性廃棄物の適正な処理の実施に協力することが適当であると考ええる。
- Q 10 市町村がステーション方式により感染性廃棄物を収集することは、ガイドラインに従った処理として認められるのか。
- A 10 認められる。ただし、ステーションが街頭の路上の場合、市町村は路上での当該廃棄物による事故のおそれをできるだけ軽減するよう関係機関と協議の上、善処されたい。

第23回日本医学会総会登録案内

福井東京都医師会長より地区医師会長あて下記の案内記事掲載依頼がありましたのでここに掲載致します。 広報部

日本医学会総会の登録推進にあたりましては、毎回貴職のご尽力、ご配慮を賜わり深謝いたしております。

さてご高承のとおり、きたる平成3年4月5日(金)から同月7日(日)までの3日間、“転換期に立つ医学と医療～創造と調和と信頼～”のメインテーマにより日本医師会生涯教育制度の重要な一環としての標記総会が京都において開催されます。

本総会の開催に先立ち、貴会あてに本会からさる平成2年6月25日付・東都医学発第372号(地区第111号)及び6月28日付・東都医学発第400号(地区第118号)により登録の推進方について依頼申し上げましたが、このほど9月13日付をもって日本医師会長から別添のとおり都道府県毎の会員数に応じた割合(東京は25%)が登録目標として指定を受けましたので、検討の結果、本件に協力することに決定いたしました。

つきましては、別表の“地区医師会別登録

目標”(25%)により、貴会所属会員はもとより、コ・メディカル及び登録者の同伴者(家族)等を対象とされ本総会への登録を積極的に推進いただけますよう、貴職のなにごぶのご高配とご協力を賜わりたくここにお願い申し上げます。

さらに各学会では、本総会出席を認定医更新に必要な単位等に指定しておりますので、この件も含めて貴会所属会員に一層のご周知方なにごぶよろしくお願い申し上げる次第であります。



第23回 日本医学会総会地区医師会別登録目標

平成2年9月

医師会別	目標数	医師会別	目標数	医師会別	目標数	医師会別	目標数
千代田区	61	荒川区	46	田園調布	42	田無市	7
神田	39	足立区	87	蒲田	57	東久留米	14
中央区	45	葛飾区	83	北区	74	保谷市	14
日本橋	33	江戸川区	90	王子	13	稲城市	7
港区	99	新宿区	119	豊島区	105	八王子市	61
文京区	33	目黒区	65	板橋区	97	日野市	22
小石川	26	世田谷区	157	練馬区	106	多摩市	16
下谷	35	玉川	40	西多摩	43	東大	38
浅草	35	渋谷区	104	北多摩	152	慶応	54
墨田区	19	中野区	89	調布市	41	慈恵	35
向島	23	杉並区	146	武蔵野市	43	日大	43
本所	14	品川区	69	三鷹市	24	日医大	42
深川	33	荏原	47	府中市	22	厚生省	12
城東	31	大森	60	町田市	51	合計	2,973
摘要							



各部紹介

公衆衛生部

部長 大堀洋一

部員紹介

秋山 静夫	明田川修生
荒巻 武彦	川辺 隆道
笹本 隆夫	玉木 一弘
野本 正嗣	林 実
横田 博	渡辺 良友
担当副会長	松原 貞一

公衆衛生部が現在行なっている、あるいは検討している事業は、各種予防接種・各種健診事業・在宅ケア・健康増進指導事業等で、自治体との協力、日本医師会、都医師会との連携の下に行なわれることが多い。

しかし西多摩地区は3市5町1村に分かれていて、それぞれの市町村の医師会や自治体の状況が異なる為、統一した事業を行なうことがしばしば困難である。又、担当者は広範な最新の医学知識が要求される。

普段ほとんど勉強をしていない私にとって、公衆衛生部長の指名を受けた時には、もっと

他に知識もあり各自治体との繋りのある人となるべきだと考えたものだが、会員のほとんどの先生は忙がし過ぎるので、比較的暇な私にお鉢が回ってきたのだろう、と考えて受けさせていただいた。

10月12日には松原貞一副会長及び部員9名の計10名が集まり、公衆衛生部委員会を開催した。主として大腸癌検診について検討した。そこでは、一次検診は出来るだけ個々の医療機関で行ない、二次検診は時間的余裕や精度管理の面など各医療機関の事情を考慮して、地区内の医療機関、及び多摩地区がん検診センターで行なう、というものだった。

公衆衛生部の仕事は在宅ケア、検診事業等今後医師会が力を入れていかなければならない部門が多く、会員全員の協力も必要とされる。従って、これまで以上に公衆衛生委員並びに西多摩医師会の皆様の御協力、御指導をいただき、事業を進めてゆきたいと考えています。宜しくお願い致します。

文芸随筆その他諸事百般

「十一月の世相を見て」

小泉新策

日に日にと秋深み行く野に山に
紅葉色づき眺めよきころ

このよき季節催し物も数多し
到る処に種々の集ひありて

緊急の國會開催派兵等
論議湧き居り憲法の根幹にふれつつ

中近東石油の利権や宗教問題
論争つづき派兵にまで及ぶと

我が憲法曲解なしてまで派兵せんとす
過去の動機かえり見てなすべし

市ヶ谷の参謀本部地下壕を
見学なせり 思い出新たに

かつて我が帰還後救護の指令受けしを
その建物もここの一部なりしを

学友の一人比處にさばかれし
東京裁判所あり行き見つむる
思い合せ成り行き見つむる

続・ほろ酔い随想

桂木 眞

秋の日暮は「つるべ」落としと申しますが、その「つるべ」を知らない人も多い若い世代の時代になりました。昨年、古希を迎えた私にとっては、人生の晩年もまた、「つるべ」落としに似た感じがいたします。平均寿命まであと数年、それともまだ10年は生きられるかな、などと考える一方で、もう何時死んでも悔いはない、とも思っています。謂わば、開き直りの心境とでも云うのでしょうか。

振り返れば子供の頃から大学を卒業するまでは、あと忌まわしい戦中・戦後の経験を除いては比較的恵まれた家族環境の中で過ごしました。そして医者になってからは、保険医総辞退の頃までの古き良き時代を満喫してきました。

当時の医者は患者との信頼関係も良く保たれ、社会的地位も高く、そして経済的にも他の職業に較べれば非常に優位でした。病院に勤務するもよし、また開業するもよし、ただ

単に医者であるということだけでもはやされ、引く手あまたの売手市場といった具合だったのです。それが今はどうでしょう。とりわけ開業医は「マスコミ」に散々叩かれた挙句に外濠を埋められ、更に内濠を埋められて、今や落城寸前の斜陽ぶりは、まさに「医師過剰」という言葉の中に集約されているように思えます。

その「もてもて」の頃、私は最初の結婚をしたのですが、直ぐに後悔し、間もなく協議離婚しました。それなりの慰謝料は払いましたが、子供のいないのが幸いでした。その後、数年を経て現在の家庭を持ったのですが、こちらの方は女房にも二人の息子にも私なりに満足していますし、もし仮に生れ代ることが出来るなら、矢張り今の家庭を選びたい、と思っています。

それはさて置き、私は前述の「もてもて」の頃から50才を少し過ぎる頃までは、例の

「遊び」の方も人後に落ちぬというよりは、むしろ飽きるほど経験してきました。しかし、如何なる場合でも、家庭を壊してまでと思ったことはありませんし、「遊び」は何処までも「遊び」と割り切ってきました。

そして最初の結婚や数多い「遊び」の中から得た教訓は、人間の価値は「外見」ではなく「心」だ、という極めて単純なことでした。更にもう一つ、この「遊び」ほど高くつくものはないということです。これではまるで馬鹿をみた、ということになりそうですが、「遊び」の最中には、それに没頭してそれなりに楽しんだのですから、それ程高い代価ではなかったのかもしれませんが。もし私が「遊び」に興味のない石部金吉だったら、今頃はかなりの資産家になっていただろう、とも思うのです。

人間、若い時にはよく「惚れた」とか「恋した」とか云いますが、それは相手に自分の理想像を勝手に重ね合わせて、それに惚れたり恋したりしているのであって、相手にしてみればそれこそ迷惑なことなのかもしれません。最近では成田離婚などというものもあるようですが、これなどは相手に対する錯覚のよい例ではないでしょうか。

こんなことを思っているうちに、ふと連想した言葉があります。且って私の列席した結婚披露宴での或る来賓の「スピーチ」なのですが、それは「結婚生活とは最初の3日間は無我夢中、次の3年間は楽しく、そして続く30年間はひたすら耐えることである。」というものです。実に含蓄のある言葉だ、と思います。

さて、人生もこう長生きをするようになると仕事もさることながら、今更「遊び」にも興味の失せた身にとっては、何か趣味がなければ退屈をもて余すことになりかねません。幸い私は囲碁という趣味があり、実力でかちとった日本棋院の二段の免状を持っています。私の囲碁好きは所謂「碁キチ」の類いで、火・木・土曜の午後と日曜は殆んど碁会所に入り浸っている、という状態です。ほかの趣味でもそうでしょうが、碁を打っていると診療という仕事に伴う「ストレス」からも、また

俗事の煩わしさからも全く開放されて時の経つのを忘れます。

それに加えての私の楽しみは、十数年前からの恒例になっている囲碁旅行です。これは毎年、春と秋に、お互い気心を知り合った囲碁仲間が集って行っているもので、「ドライブ」と秘湯と囲碁を楽しむ旅行なのです。人数は数名から10名ぐらい。「ワゴン」車1台と乗用車1台に分乗して出かけます。春には4泊、夏には6泊ぐらいなのですが、一番長かったのは数年前の南紀旅行の8泊でした。碁が主体ですから、一つの宿に2日連泊し、到着の翌日は朝から夜までゆっくり打とうという寸法です。このように、「ドライブ」では風景を楽しみ、宿ではいど湯の気分も味ってはいるのですが、そのほかは夕食時の酒宴を除いて朝から夜まで囲碁三昧、その間「テレビ」も新聞も見ないので、家に歸った時には全くの「今浦島」といた有様です。

このように、私にとってはこの上ない楽しみなのですが、そのためにはその間を休診にしなければならない、という「うしろめたさ」を伴います。3週間ぐらい前からの休診予告の張り紙を見て、「先生、ずい分長いお休みですね。」と皮肉たっぷりに云う懇意な患者に、私は「ちょっと研修にね。」と答えるのですが、彼はすっかりお見通しなのです。

その私に医師会の川崎先生から「囲碁の相手をして欲しい。」との申し出があったから、かれこれ2年半になります。最初は彼が私に2子を置くところから始まりましたので、謂わば私が師匠、彼が弟子という格好でした。

お互いに別の予定や支障のない限り、木曜・土曜、日曜の午後は二人の対局で費されてきました。大部分は行きつけの碁会所での待ち合わせですが、たまにはお互いに訪れあっての対局です。碁会所で打つ時も碁仇よろしく、ほかの人は相手にせず二人だけで打つのですが、それも掛け合い慢才調に半分は舌戦を交えながらの対局ですから、実に楽しい限りです。

彼と私は、一昨年は鬼怒川で、今年は鴨川で行われた棋院の囲碁「セミナー」にも参加しました。私の弟（同じく開業医で五段）と

I氏(私とは旧制高校の同窓で親しくしている五日市在住の六段)も一緒でした。それなりに往きも歸りも、また夜の酒宴も楽しいものでした。しかし、そこでも数々の催しには目もくれず、到着した日から翌々日の歸る直前まで二人だけの対局に終始したのですから我ながら呆れるばかりです。

そうこうしているうちに、凝り性の彼は囲碁の勉強に熱中していたらしく、有料ながら「ペーパー」四段の免状を入手し、私に対して先番になったのも束の間、最近では互先になり、うかうかしていると私の方が先番に追い込まれそうな雲行きになってきました。

彼には、趣味はほかに「ゴルフ」や俳句

がありますが、私は囲碁一辺倒なのですから、師弟逆転という事態にいたることだけは面目にかけても防がなければならない、と決意を新たにしているところです。それとも弟子の彼が師匠の私に恩返しするのを喜ぶべきなのでしょう。

以上、緯々と述べてきたように、私の今の心境は、まさに「我が人生に悔いなし。」の一語に尽きると思います。というわけで、もういつ死んでも満足であるには違いないのですが、ただ、肉体的に苦しんで死ぬことだけはご免です。また延命医療もお断りです。

願わくば私の存命中に安楽死が認められるようになることを念じて筆をおきます。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMN

BEATLESの時代

渡 辺 良 友

1958年頃、イギリスのリバプールに音楽好きの少年たちがいた。その頃のイギリスは、かつての大英帝国の栄華をアメリカに譲り港湾都市として栄えたリバプールも不況に喘いでいたが、新しい芽が生まれたのである。ジョンレノン、彼は叔母に育てられ中学の頃には一端の不良であったが、ギターは旨かった。ポールマッカートニー、彼は、音楽家の父を持ちサウスポーであったが音楽のセンスは、親譲りであった。ジョージハリスン、彼は、彼等の楽しそうなバンドの取り巻きであったが努力して、ギターをマスターしてバンドに入れてもらえた。ドラムはどうしようもなく下手であったが暫くは我慢しなければならなかった。彼等はギャラなしで、学校のパーティーなどで演奏したがなかなかうだつが上がらなかった。その頃のヨーロッパでハンブルグといえば夜の町として有名であったがそのキャバレーで二流のバンドとして、雇われマイボニーなどのレコードを出したが出来は悪かった。1963年Love me doのレコードを出す直前にドラムを変えた。そのドラムが、リングスターであった。ここに四人のアイド

ル、The BEATLESが生まれたのである。

BEATLESの台頭は1964年でその後若者の心を虜にしBEATLESの成長と共に我々の心のイニシアティブを取ったのである。彼等の歌の初期は、Lovesongであり、いわゆるアイドルであったが、斬新なメロディーでいままでのアイドルとはちがい作詞作曲は自分たちでその才能に驚かされ、ギターにボーカルのマッチングは新しい何かを感じさせた。

しかし、新しい物の常で、騒音に近く音楽に値しないなどの酷評もあったが、この手の批評は高名作曲家にはつねに付き物であり、その後の成長で全く問題外となってしまった彼等の才能の一つは、sound creationであり、今まで聞いたこともない new soundをつぎつぎと作りだした。

またもう一つの才能は我々の時代と共に生き、その解散も我々の青春の終わりと共に終わったことである。ポールマッカートニーは彼等の中でいちばんの作曲家と言って良いだろう。彼の才能は音楽家である父より受け継

ぎ group sounds のなかにおいて傑出した才能をみせている。またジョンレノンは作詞にすぐれ本来の意味のほかの言葉の遊びをその詩の中にいれているとの事である。

彼等は、初期においては、エレクトリックギターとドラムとボーカルだけの荒々しい中にマイナーの旋律をつかいENGLANDの古い民謡をおもわせる曲とアメリカンポップスからのロックンロールの曲が多い。

しかし、その後 drug によるいわゆるサイケデリックサウンドに移るのであるが、サージャントペパーズロンリーハーツクラブバンドにみられる前衛的サウンドは世界のミュージシャンをもうならせてしまった。その後四人はそれぞれの活動とサウンドを求めいっこうに新曲が発表されなくなってしまった。ジョンとポールの仲が決定的に分裂し最後のアルバムはアビロードとレットイットビーはサウンドプロデューサーがそれぞれの書き残した曲にストリングスをつけ分裂状態のBEATLESのアルバムとして発表した。その中にも名曲が多いのはBEATLESが最終的には国家的プロジェクトとなってしまったからである。イギリスにおける一番の輸出がBEATLESの印税であった時期が長かったのである。BEATLESと言うブランドは若者には絶対的な存在でもあった。

BEATLESはその後団魂の世代の心に生き続け、またその子供も又彼等の虜になってしまうのである。しかし、考えてみると彼等はEMIを通し莫大な国家寄与があった訳で、またEMIにとってもCTスキャンの開発には少なからずの財政基盤となって、現在の医学界に大きく貢献したことになる。この20年における医学上の発明ではもっとも偉大な業績といっても過言ではないCTスキャンがBEATLESと結びついているのは興味深い。

その後の彼等はポールマッカートニーはThe WINGSを作り人気バンドとなったが今一つ philosophy に欠け、ジョンレノン是小野ユウコと共にグループを作りIMAGINEの名曲を作るがメロディーにはBEATLES時代とは遠く及ばない曲が多い。

1980年ジョンレノンはニューヨークでBEATLES狂信者に銃撃され彼の一生は終わった。しかし彼の言動はCIAに無政府主義者としてマークされていたとの報道が2年前あったとき、イマジンが人を感動させる事は出来ても国家はあくまで冷徹である事を強く感じさせた。

それではBEATLESは今後の音楽史においてはどのような評価がなされるのであろうか。クラシックではないためポップスとして低い評価しかされないかもしれない。むしろ1960年代の風俗史のなかで後世に残されるほうが大であらう。

この前ローリングストーンズの初来日があり、だいぶフィーバーしていたが昔の彼等を知っている者としては老醜そのものであった。彼等こそ数年開花し、消えていくべきであったと思う。ビートルズは1960年代に旋風を巻き起こし消えた。

1973年、私はアビロードのアルバムの表紙に写っている4人の様にアビロードの交差点をわたった。そこは、中流の民家の様なEMIスタジオから出た直前の2車線の交差点であった。車の通りも人の通りも少なかった。



生涯現役

郡医師会の思ひ出

高木 直二郎

今や医師会も殆ど代替りして、二世時代となった。昔と違って殆ど顔を合さない先生ばかりである。小生“何処の馬の骨”かと思はれてもいやだから一寸ばかり素性を申上げておく。小生本所の産、大正四年原宿に移り、まだ明治神宮は出来ていなかった。(出来たのは大正九年)。関東大震災はこゝで迎えた。昭九東大卒、当時の大学生は、皆明治生れで、そろそろ大正生れが入ってくるぞなんて云ってたものだ。卒后七年間の医局生活、終ると戦争の真最中の昭和十五年技術少佐として、第八陸軍航空技術研究所入所、傍ら東京第二陸軍共済病院内科部長、主として航究医学の研究をやらされた。戦后立川病院内科部長、慶大附属医等の講師兼任第一回より四回までのインターンに接した。仕事の関係上、目白、荻窪、吉祥寺、立川(こゝに五年間)と移り、昭二十三年八月青梅に移り西多摩医師会に入った。当時会員数も少く、和気あいあいとした気分であった。ドライブなんか車十台を連ねても一緒に走れた、(今なら出たとたんバラバラになる)日本医師会も名物武見先生が会長で、厚生大臣などは小僧ッ子扱ひ誠に活気があった。当時西多摩医師会は、御岳の殿様と称された福田先生が長くやられ、没後は福生の山田先生が永くやられ、その後青梅の石森先生が永く務められた。石森先生はお酒は飲まれなかったが、宴会では、先生が居られる丈で坐が賑かになった。その後五日市の小泉先生及び瑞穂の高水先生が之亦長く活躍され、その後地元の名士瀬戸岡先生が就任、若く発刺として活躍されてゐたが、惜しくも早逝され、現在の西村先生となり、その間会員数も飛躍的に増え、都内のドーナツツ現象もあって、都内の医師会に比し、活気溢れる大医師会となつてゐるのは誠に喜ばしい次第である。青梅町が市になったとき長老の亡き



高木先生御夫妻

進藤先生が青梅市医師会を造られ会長となられ、次に地元の大河原先生が永く会長となられ、郡医師会にも大いに尽力され、その後小生が市医師会長となつたとき、郡医師会理事と兼任し余り役にも立たず申訳なく思つてゐる。小生青梅に流れて来たとき、T.B.の多いのに驚いた。都内より空気がきれいなのに、軒並みと云い位だった。正に国民病であった。その他腸チフス、赤痢疫痢etc.の急性伝染病、回虫その他の寄生虫も多かつた。日本脳炎の流行した事もある。昨今の様に自動車が出駄がはりの時代と違って一般の人は足がなく、重病であればある程こちから出かけなければならぬ。当時の人は、医者なんか24時間働くものだと思つて夜夜中でも遠慮なく叩き起される。二晩三晩碌にねられない事も珍しくなかつた。医者は体力との勝負であつた。生活もめっちゃめっちゃでよく生きて来たと思ふ。青梅に来てアツツ云う間に40年余り過ぎてしまった。会員諸氏の御健闘と、会の益々の発展を心から祈る次第である。

西村会長都知事表彰受賞祝賀会

広 報 部

西村会長の平成2年度都知事表彰受賞を祝う会が、10月26日「幸楽園」で医師会員ら60余名の出席により行われた。

会は林総務部長の司会で、まず発起人を代表して松原副会長が祝辞を述べられ、次いで田村都議、石川福生市長、仲村福生市議会議

長の来賓の祝辞に続いて山田正哉先生の乾杯で祝宴に入った。記念品の贈呈や医師会事務職員から花束を受けられた西村会長は、出席者へのお礼と共に今後も地域医療に貢献したいとの謝辞を述べられ、後藤先生の閉会の辞で祝う会は盛会にしてお開きとなった。



松原副会長の祝辞



記念品を受ける西村会長



歓談中の西村会長



謝辞を述べる西村会長

第 6 回西多摩医師会写真展

第 6 回西多摩医師会写真展は、今回より会場を羽村のコミュニティセンター 2 階ロビーに移して10月21日より28日（日）まで行なわれた。今回は16名、44点の参加があり（過去最高）、初参加も数人あり、会場の設定が効を奏してか、従来より来場者数が大幅に増え、連日盛況をみせた。今回の参加者は次の通り。

稲垣壮太郎、石田信彦、内山 大
 押切 勝、鹿野純一、近藤友好
 小林康光、三枝襄二、坂本保己
 松原貞一、正木 弘、真鍋 勉
 宮川栄次、山田正哉、安富一夫
 次回は平成 3 年 5 月の予定。



写真部懇談会

☆27日当会場で行なわれた批評会の講師花森俊一氏の寸評

『確かな目で自己表現』

この写真「実にほほえましい」「バックの処理がうまい」「人の表情をみごとに写している」など、西多摩医師会の先生方の作品を見て感心しています。第 6 回展は花や人物、風景にすぐれたものがあり印象に残りました。カメラによる自己表現、それには確かな目が必要です。今後も、見る者の胸を打つ作品を期待します。

花森俊一（写真家・羽村町在住）



1234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890

ブロックだより

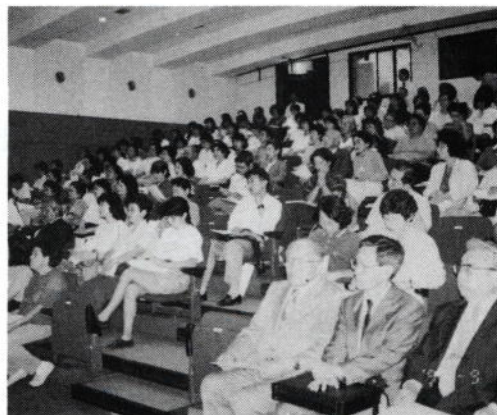
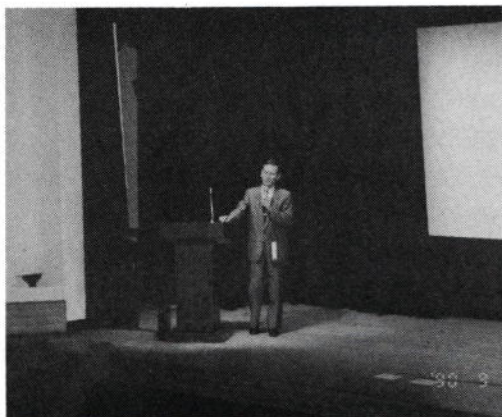
ブロックだより（羽村）

広報部

第 3 回羽村町三師会主催の「町民健康のつどい」が 9 月 8 日（土）、羽村町コミュニティセンター 3 階ホールで行なわれた。

今回は薬剤師会が主体となり国立衛生試験所食品部長、薬学博士の齊藤行生先生が講師となつて、テーマは、「食品の安全性を考え

る。」と最近問題となっているタイムリーなテーマを選択したためもあつて会場は 180 席が満席となる盛況ぶり、メモを取ったり、質問時間が足り無くなる程で、健康に密接な食品という基本的な問題に町民の関心の深さをうかがうことが出来た。



アイウエオカキクケコサシスセソタチツテトナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨンアイウエオカキクケコサシスセソタ

青梅医師会ゴルフコンペ

台風21号の去った10月10日体育の日、青梅ゴルフクラブで二回目の青梅医師会コンペが和やかに開催されました。スコアでは今ひとつだった市原先生も優勝の呼び声に御満悦でした。スタート時間も、コースも別々で、表彰パーティーもレストラン宝林で行うという変わった形式のコンペでしたが、こうすれば休

日のコンペも可能であることがわかりました。今後は年二回春秋に東京バーディーと青梅GCで交互に行う予定です。大した賞品がでる訳ではありませんが、次回には歴代青梅医師会長の御寄贈による立派な会長杯が御披露できる予定ですので御期待下さい。

(青梅市 吉野住雄)

	西	中	東	グロス	ハンデ	ネット	順位
足立	49	46		93	16.8	76.2	6
足立 Mrs.	57	61		118	34.8	83.2	BB
大河原 Mrs.	56	62		118	37.2	80.8	13
笹本	58	51		109	27.6	81.4	14
吉野	41	43		84	9.6	74.4	3
吉野 Jr.	42	43		85	12	73	2
大堀	57	56		113	36	77	10
山田(総・外)	69	68		137	36	101	16
宇田(総・外)		49	44	93	16.8	76.2	5
友石(総・泌)		45	51	96	19.2	76.8	9
市原		47	47	94	20.4	73.6	優
森(バイエル)		50	56	106	28.8	77.2	11
内野(大正)	45	46		91	15.6	75.4	4
大河原	58	56	1	114	36	78	12
田中(穂)	54	43		97	20.4	76.6	8
石田	53	46		99	22.8	76.2	7

お知らせ

第2回多摩医学会役員会報告

石井好明

10月4日 北多摩医師会館にて

(西多摩より大河原・大久保・石井各先生出席)

- | | |
|---|---|
| 1) 第66回講演会(12月1日午後2時より)
演題決定
西多摩からは、多摩開業医心臓研究会・高木病院・目白第二・阿伎留・福生・青梅市立の6施設が出題 | 合計12題の発表順位も決定
2) 座長は 三鷹・保谷・田無の医師会長に
願います。
3) 当日の準備・手伝いに各医師会の職員を
願います。 |
|---|---|

日本内科学会関東地方会開催のお知らせ

青梅市立総合病院 坂本保己

第397回内科学会関東地方会は当西多摩地区にて開催されます。自由にご参加いただけますので下記のとおりご案内いたします。

日 時：平成2年12月8日(土)
午前9時～午後4時

会 場：青梅市立総合病院講堂

当番幹事：青梅市立総合病院

内科 坂本保己

当地方会は内科学会に所属する関東地方の個人および施設会員による学術発表と交流の会として年9回開催されていますが、会への出席はオープンになっています。

登録医研究会のご案内

公立 阿伎留病院 平沼 俊

本年1月1日より阿伎留病院と西多摩医師会との間で登録医制度が締結されましたが、その主旨は、病診連携を蜜にし、地域医療の向上を図ることと思います。

当院としましては、信頼の関係を強くし、互いの技術研修の目的として登録医研究会を実施させていただくことになりました。

第1回目は、去る9月26日に当院外科科長の松本先生の『急性腹症(急性虫垂炎を中心に)について』を行いました。次回は11月28日(水)日大第一内科講師、西成田 進先生に『膠原病について』を、次々回には、

平成3年2月13日(水)に済生会向島病院院長、北村信一先生に『糖尿病の患者教育について』を予定しております。

今後も年5～6回程度なるべく先生方の日程にあわせて定期的実施していきたく計画しております。

出来るだけ多くの先生方にご参加いただきたいと願っておりますので何卒、宜しくご理解ご協力の程お願い申し上げます。

尚、登録医研究会の世話人として、医師会から湯川文朗先生になっていただいております。

第10回西東京糖尿病研究会予告

公立 阿伎留病院 高 村 宏

と き：平成2年11月17日(土) PM3:00

ところ：武蔵野市 ホテル プレステージ

武蔵野市中町1-17-3

(TEL) 0422-53-2525

三鷹駅北口 徒歩3分

会 費：¥1,000円(1名につき) コメディ
カルな方も歓迎します。

プログラム

15:00 症例検討 (司会、原)
データ不完全の症例でも遠慮せずお持ち下さい。
各世話人が個々の御相談にも応じます。

16:00 第10回特別記念講演
(司会、貴田岡)

「糖尿病の外来診療」

松岡健平先生

(済生会中央病院)

17:00 質疑応答

17:30 懇親会 (司会、近藤)

世話人

恵仁会病院	川 明
府中市 伊藤クリニック	伊藤 真一
多摩老人医療センター	中野 忠澄
立川相互病院	宮川 高一
公立阿伎留病院	高村 宏
公立昭和病院	貴田岡正史
青梅市立総合病院	原 義人
小平市 近藤医院	近藤甲斐夫

(連絡先 0424-67-2162)

西東京臨床糖尿病研究会からのお願い

本会は別紙のプログラムのように、当初、慶大講師、片岡邦三先生と日本糖尿病協会理事、田中剛二先生らの御協力で、昭和61年6月にスタートして、本年11月には、第10会の例会を迎える事になりました。

自動車の数とともに増加している糖尿病患者と、医療内容の急速な進歩や専門化がかさなりあって、必ずしも適正な診療を受けていない患者さんの事例も多々あるものと思われます。

本研究会のねらいはひとくちにいうと、第一線の実地医家への知識の普及と、ネットワーク作りです。西東京の各地域の中心的役割をはたすべき医療施設で、糖尿病専門外来を担当している医師にお願いして、会の運営の世話人になってもらいました。

下記の世話人の他に、現在も2、3の先生方

に呼びかけをしています。このような輪を広げていき、地域の開業医は、必要があれば糖尿病の患者教育や、複雑な臨床検査を依頼したり、病院側からコントロールのついた患者の外来管理の依頼を受けたりするシステムを作る上で、何らかの役割が果たせれば、と考えている次第です。

南九州、京都山科、都内城北地区などにも類似した運動があり、地域の医師会の応援やコメディカルスタッフの参加が積極的にみられるようです。

本会は、あくまでも有志のプライベートな研究会ではありますが、なるべく多くの第一線の医家に賛同していただくため、まず、各市の医師会の学術部などに協力していただき医師会報などを通じて、先生方に会の主旨や日程などの御紹介をお願いしてみようという

事になりました。世話人一同は、生涯教育や病診連携を通じて、地域の為のより良い医療について、更に話し合いを深めたいと考えております。どうかよろしくお願い致します。

世話人

恵仁会府中病院 川 明
府中市 伊藤クリニック 伊藤 真一

多摩老人医療センター 中野 忠澄
立川相互病院 宮川 高一
公立阿伎留病院 高村 宏
公立昭和病院 貴田岡正史
青梅市立総合病院 原 義人
小平市 近藤医院 近藤甲斐夫

(連絡先 0424-67-2162)

1234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901

お 知 ら せ

12月（11月診療分）の
保険請求書類提出日

12月6日（木）

— 正午迄です。 —

例年どおり年末で早くなっております。
お間違いのないようお願いいたします。

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
ご相談下さい。

- ◎ 相談日 11月は14日（木）
12月は12日（水）の予定です。
 - ◎ 場 所 西多摩医師会館和室
 - ◎ 内 容 医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、
刑事に関するどのようなものでも結構です。
 - ◎ 相談料 無料（但し相談を超える場合は別途）
 - ◎ 申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- （注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

- (都) 医療助成ポスター
- 「平成2年度日本医科大学医師会主催日本医師会生涯教育講座」(第2回)の開催について
- 捜査関係事項の照会依頼について
- 医療保険の手引(正誤表)

§ § § 表紙のこゝば § § §

木曾駒に始めて登ったのは36年前、夜行で着いた宮田駅から歩き出し、ひと山越えて黒川溪谷を遡って頂上に達したのだった。今年は、千畳敷までロープウェイで登り、主積から西に外れた三沢岳まで足をのばした。稀な晴天に恵まれて、頂上の岩にねそべり、東は甲斐駒・仙丈・北岳に始まる南アルプス、西に御岳、乗鞍・徳高・槍とつづく大展望を独占したまではよかった。いざ帰るとなると、いつもの山と違い、下りばかりではなかった。

200米ばかり下った鞍部で、これからまた、あの積紙を越さなければならないのかと、少々うんざりしながら見上げて写したこの木曾駒の写真を、ピントが一番ボケていないから、と眞鍋先生が表紙に採用して下さった。この後、重い足をひきづって積紙に辿りつき、休む間もなくかけ下りて、フラフラになって最終のロープウェイに間に合ったのであった。

石井 好明



あ と が き

先日、町主催のソフトボール大会に出場した。我々のチームは順調に勝利し、決勝戦まで進んだ。勝負は負けるより勝つ方が気持ち良い。最近、日本のスポーツは低迷している。9月北京で行われたアジア大会、金メダルの数が激減したとマスコミは報じ、多くの人達はがっかりしたのであろう。オリンピックは参加することに意義あり、と今も真剣に考えている人が世界中にどの位いるだろう。試合は絶対に勝つ方が良いし、勝つために最大限の努力をすることが大事だ。ナショナルチームともなればプロも同然、才能のある人達の集団なのだから、その努力と結果に対する補償をしてやらなければ、良い成果は得られないだろう。中東への貢献策として40億ドルの援助を行うとのこと。どこからわき出てくるのか。この一部でもアマチュアスポーツに、と考えるのはと不謹慎であろうか。金は稼ぐより、うまく使う方がむずかしい。

(小机)

お詫びと訂正

第214号(平成2年10月号)のP11の伊藤裕氏の役職名の「所長」は「予防課長」又、P16の東京都「勤労者」は「功労者」のまちがいです。ここに謹んでお詫びし訂正させていただきます。

平成2年11月1日発行

発行所 (社) 西多摩医師会

東京都青梅市西分3-103
TEL (0428)23-2171(代)

会報編集委員 眞鍋 勉

石井好明	小机敏昭	小林杏一
田代 洋	玉木一弘	堀田洋夫
道又正達	百瀬眞一郎	渡辺良友

印刷所 マスダ印刷 TEL (0428)22-3047

品質管理と安定供給をモットーに
今日も歩むグリーンネットワーク

医薬品総合商社

東京医薬品株式会社

多摩支店

〒190 東京都立川市富士見町4丁目2番1号

TEL. 0425(28)0703(代表)

〈営業所〉

小金井第一営業所	〒184 東京都小金井市本町6丁目9番36号	TEL.0423(84)5181(代表)
小金井第二営業所	〒184 東京都小金井市本町6丁目9番36号	TEL.0423(84)5191(代表)
立川営業所	〒190 東京都立川市富士見町4丁目2番1号	TEL.0425(24)3361(代表)
八王子営業所	〒192 東京都八王子市大和田町1丁目8番24号	TEL.0426(46)7475(代表)
多摩営業所	〒206 東京都多摩市南野3丁目4番17号	TEL.0423(71)2671(代表)
小平営業所	〒187 東京都小平市小川東町4丁目6番6号	TEL.0423(43)5211(代表)
羽村営業所	〒190-11 東京都西多摩郡羽村町神明台3丁目32番2号	TEL.0425(55)7501(代表)

最新のテクノロジーが計測します
そして、人の眼と心が記録します



臨床検査のバイオニア

保健科学研究所

本社 〒240 横浜市長谷区神戸町106 TEL./045-333-1681(大代表)

仙台支社 〒983 仙台市宮城野区扇町1-3-5 TEL./022-238-9345(大代表)